＜別紙１＞

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：グローバルキッズ市が尾園		種別：認可保育所	
代表者氏名：益子　恵		定員（利用人数）：60名（55名）	
所在地：〒225-0024　横浜市青葉区市ヶ尾町1063-4 エトモ市が尾4F			
TEL：045-973-3085		ホームページ：https://www.gkids.co.jp/facilities/nursery_066.html	
【施設・事業所の概要】			
開設年月日：2015年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社グローバルキッズ			
職員数	常勤職員：　21名	非常勤職員：　6名	
専門職員	園長　1名	保育士　20名	
	保育補助　1名	看護師　1名	
	栄養士　1名	調理師　2名	
	用務員　1名		
施設・設備の概要	保育室　6	トイレ　3	
	調理室　1	事務室　1	
	園庭　なし	テラス　1	

③理念・基本方針

企業理念：子ども達の未来のために

保育理念：豊かに「生きる力」を育てる

保育目標：・遊びこんで何に対しても楽しめる子・自分の気持ちを素直に表現できる心豊かな子・いろんなことに感謝の気持ちを持てる子

保育方針：・子ども一人一人に寄り添った保育・安心、安全に笑顔で過ごせる環境づくり

④施設・事業所の特徴的な取組

毎日の保育内容をドキュメンテーションを通して保護者へ共有している。
アプリ(コドモン)で連絡帳やお知らせ等を行っている。
アプリ(コドモン)の連絡で保護者の相談・意見の把握をしている。
乳児クラスは０・１・２歳児を少人数のグループに分けて保育を行っている。
幼児クラスは３・４・５歳児の異年齢で運営している。
全職員でミマモル保育研修を受けながら、取り入れている。
夏期のみ４・５歳児はメガロスでプール活動を行っている。
４・５歳児は月１回の外部講師による体育指導を行っている。
午前・午後の2回、散歩をしている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年5月9日（契約日）　～ 令和5年12月5日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2020年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)「ミマモル保育」で子ども自身が選択できる力を育んでいます

園では、子どもの主体性を育むーつとして、「ミマモル保育」を実践し、子ども自身の自発性、主体性を育くむようにしています。活動内容によって保育室内にコーナーを作り、子どもの興味の先を見て遊具を用意するなど、子どもが自分で遊びたい内容を選択できる環境を整えています。また、異年齢で関わることで刺激を受け、様々な事を学び取る力を伸ばすようにもしています。保育者がすべてを与える保育ではなく、子ども自身の選択する力を育み、子ども一人ひとりに対して、その時の状況や取り組んでいる対象によって関わり方を変えながら「ミマモル保育」を実践しています。

2)子どもに寄り添った保育を行うため、職員間での情報共有が図られています

異年齢保育の導入に伴い、効率的な職員配置と会議体の変更をしています。毎日の「申し送り」という打ち合わせ時間を設定し、その中で日々の保育で把握した子どもの様子、家庭からの連絡事項や保育についての意向などが共有されています。「申し送り」には、園長をはじめ乳児・幼児それぞれのリーダーまたは代表者と看護師、調理士が参加しています。乳児と幼児それぞれのリーダーは自らのグループに情報を持ち帰り、毎日グループ内で共有しています。また打ち合わせの参加人数をそれぞれ小さくしたことで、全ての参加者が発言しやすい環境も作られています。

3)丁寧な保護者対応を通じて、園と保護者との信頼関係を構築しています

園は、保護者と子どもの育ちを共有できるように、誠実なコミュニケーションを心がけています。職員は日々の会話や連絡用アプリを用いて、毎日ドキュメンテーションやお知らせを配信するなど、保護者とともに子どもの育ちを見守る体制づくりに取り組んでいます。保護者が意見を述べやすい雰囲気作り、意見・苦情への対応を行っています。苦情等については職員自身が客観的に保護者との対応について、分析する方法、手順を園内研修等で学び、信頼関係の構築に努めています。

4）実習生や職場体験、ボランティアの受け入れについて、さらなる積極的な取組が期待されます

実習生やボランティア等の受け入れはマニュアルを整備し、法人が窓口となり体制を整えています。しかし、コロナ禍の2020年以降、実習生やボランティアの受け入れ実績がありません。実習生の受け入れは福祉人材を育成するという社会的責務の1つです。地域の学校教育への協力は社会資源としての保育所の役割とも考えられます。今後は感染対策を取りながら、状況に応じた受け入れ方法を検討し、再開を期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園から3度目の第三者評価を受診させていただきました。お忙しい中アンケートにご協力いただきました保護者の皆様、並びに親身になって視てくれた評価機関の皆様、園運営について振り返る機会をいただいたこと感謝申し上げます。 今年度から異年齢保育を取り入れ、部屋をクラスとしての認識ではなく、用途別で使用できるように改革しました。環境の変化に合わせて、園児は自分がやりたいことを選んで活動に参加するようになり、より一層主体的に活動する姿が見られるようになりました。 職員については年齢別ではない運営を行うことで、より一層チーム力が求められるようになり、会議を頻繁に行い意見を活発に交わしながら運営する姿が見られるようになりました。 地域に開かれた園づくりにおいても今年度は地域開放を再開し、駅近という利便性からたくさんの地域の方々にご利用いただいております。しかしながら実習生やボランティアの受け入れについては問い合わせが全くない状況のため、今後近隣の状況を確認しながら受け入れを行いたいと考えております。

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり